

## 第 1 回 防災委員会

### 巖浄閣の歴史と過去の災害について

#### [ 1 ] 巖浄閣の歴史

島巖翁の遺言により、明治 3 6 年富山県立農学校校舎として設計施工され、昭和 4 3 年、現在の位置に移築・修復された。そして、当時の吉田富山県知事を迎え、「巖浄閣」と命名された。島巖先生の、浄財によって建てられたというのが由来である。平成 9 年に国指定重要文化財（建第 2335 号）に指定された。



雪の巖浄閣

巖浄閣ライトアップ



## 〔 2 〕過去の災害

( 1 ) 庄川の主な災害

| 発生日             | 発生原因     | 被災市町村 | 被害状況                                                                                  |
|-----------------|----------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和 9 年<br>7 月   | 集中豪雨     | 大門町   | 死者 2 0 人<br>負傷者 2 4 0 人<br>流失家屋 9 4 棟<br>民家破損 5 4 1 8 棟<br>浸水家屋 4 0 0 9 棟             |
| 昭和 2 5 年<br>9 月 | ジェーン台風   | 高岡市射水 | 死者 4 人<br>負傷者 1 5 8 人<br>住家全半壊 9 8 6 棟<br>床上浸水 2 7 棟<br>床下浸水 1 0 9 5 棟<br>橋梁流失 6 1 ヶ所 |
| 昭和 5 1 年<br>9 月 | 台風 1 7 号 |       | 流失家屋 8 棟<br>浸水家屋 4 2 棟<br>加越能鉄道橋落橋                                                    |
| 昭和 5 8 年<br>9 月 | 台風 1 0 号 |       | 浸水家屋 1 5 棟                                                                            |
| 昭和 6 0 年<br>6 月 | 梅雨前線     |       | 床下浸水 9 棟                                                                              |

## ( 2 ) 地震

「天正の大地震」 1 5 8 6 年 1 月（安土桃山時代） M 7 . 8

福岡町の木船城で、城主の前田秀次以下家臣が多数圧死

「安政の大地震」 1 8 5 8 年 4 月（江戸時代） M 7 . 0 ~ 7 . 1

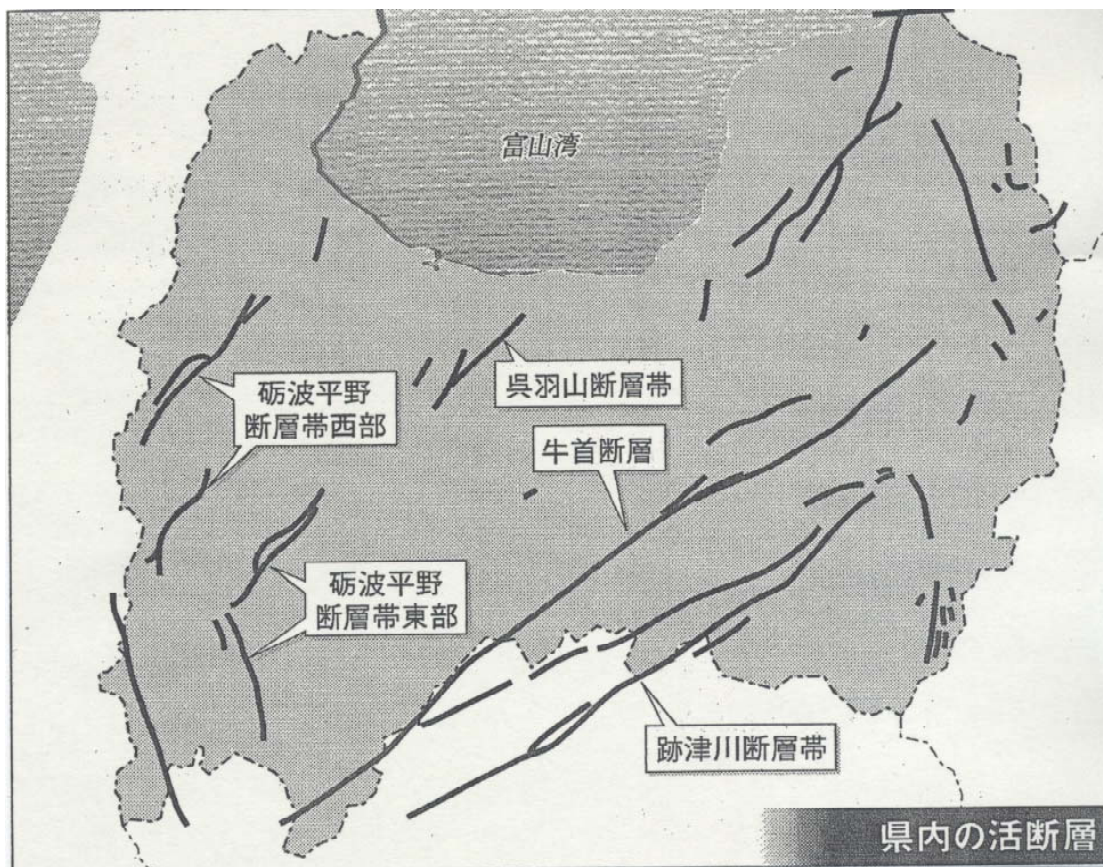
跡津川断層が震源とみられ、飛騨北部から越中、加賀に及ぶ範囲で震度 5 以上の揺れにおそわれた。西部では震度 5 で、高岡で地割れが生じ、寺が傾いた。県東部では震度 6、富山城の石垣や門が破損した。さらに、この地震で常願寺川上流の立山カルデラ内では、大とんび山と小とんび山が崩れ、土砂が湯川と真川をせき止めた。約 2 週間後の地震の震動でその土砂が崩れ、大洪水となり、下流域の家屋 1 6 1 2 戸が流失・倒壊し、1 4 0 人が犠牲になった。

1 9 3 3 年の富山市内の観測開始以来、県内の震度 4 以上を記録した地震は 6 回で

ある。

直下型地震～「震度7襲う可能性も」～

阪神大震災や新潟中越地震の原因は活断層である。活断層は、将来も活動を繰り返す可能性のある断層で、断層が活動して岩盤がずれるときに地震を引き起こす。活動間隔は千年から数万年といわれている。日本列島には約二千もの活断層が存在しており、県内の地下にも36の活断層の存在が指摘されている。複数の活断層で構成されるところは「断層帯」と呼ばれる。富山県は日本でも活断層の多い地域の一つである。政府の地震調査委員会の評価によると「跡津川断層帯」(69km)は、今後30年から300年以内に地震が起きる可能性はほぼ0%という。だが、富山市を通る「呉羽山断層帯」(22km)は今後30年以内にM7.2程度の地震が起きる確率は最大1%、「砺波平野断層帯」西部(26km)でM7.2程度が最大3%以上、「砺波平野断層帯」東部(30km)でM7.3程度が最大6%となっている。この確率は、国内の断層帯では、呉羽山断層帯がやや高いグループ(0.1%以上3%未満)、砺波平野断層帯は東部西部とも高いグループ(3%以上)に属している。確率を見ると低いように見えるが、阪神大震災の「野島断層」の発生直前の確率は0.4%～8%であった。



海溝型地震（想定されている東海地震）

海のプレート（岩盤）が海溝に沈み込む際、陸のプレートが引きずり込まれて限界に達したとき起こる。

## 生徒の意見

### 感 想

- ・ 6 %でも砺波平野で地震はすごく起こりやすいとわかったので、しっかり対策すべきだと思いました。
- ・ 砺波平野に断層帯があり、地震の確率が高いので、自分が生きている間に起きたら大変だし怖くなりました。
- ・ M 7 ほどの地震はどれくらいなのか全くわからないけど、だからこそ常日頃から備えておく必要があるんだなと感じました。近くに庄川があるのでなおさら心配です。
- ・ 富山県だけでも 3 6 の活断層があることに驚いた。しかも、今後 3 0 年以内に M 7 程度の地震が起きる確率は意外に高い。大災害を身近に考えなければいけないなあと思った。
- ・ 中学校の総合の時間に地震について調べたけど、阪神大震災というあんなにも大きなもので 0.4 % ~ 8 % だったことにびっくりした。砺波平野断層帯の東部でも 6 % もあるのだから、少しずつ行動していかなければならないと思った。今は何も知らず、どうすればいいかわからないけれど、少しでも身を守る方法を知り、あわてずに動けるようになりたい。
- ・ 風水害の起こる間隔がどんどん短くなって来ていることに驚きました。
- ・ 3 0 年以内に M 7 . 3 が 6 % なので砺波は安全なのかなと心配になりました。
- ・ もし地震が起こったときのために対策を知らなければならぬと思いました。
- ・ 地震は起きると被害がものすごく大きくなるので、しっかりと地震について学び地震の起きる可能性があるということを意識したいと思う。
- ・ 台風もほぼ毎年大きなものが起きているので災害について勉強していきたい。
- ・ 地震が起きても命を大切にしたいから、地震から身を守るための方法を知りたいと思いました。